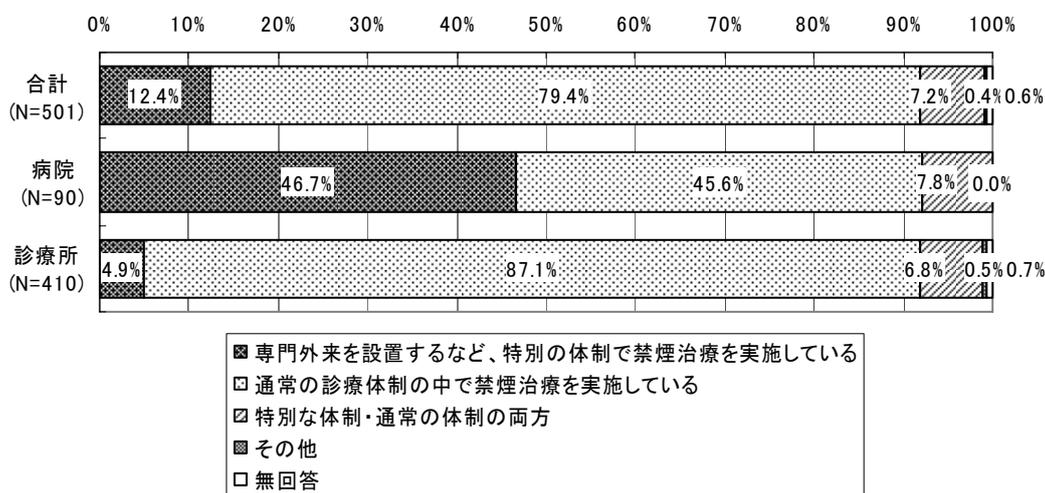


6) 禁煙治療の体制

医療機関全体では、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(79.4%)が最も多く、次いで「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(12.4%)であった。

医療機関種別にみると、病院においては、「専門外来を設置するなど、特別の体制で禁煙治療を実施している」(46.7%)が最も多く、次いで「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(45.6%)であった。診療所においては、「通常の診療体制の中で禁煙治療を実施している」(87.1%)が最も多く、次いで「特別な体制・通常の体制の両方」(6.8%)であった。

図表 11 禁煙治療の体制



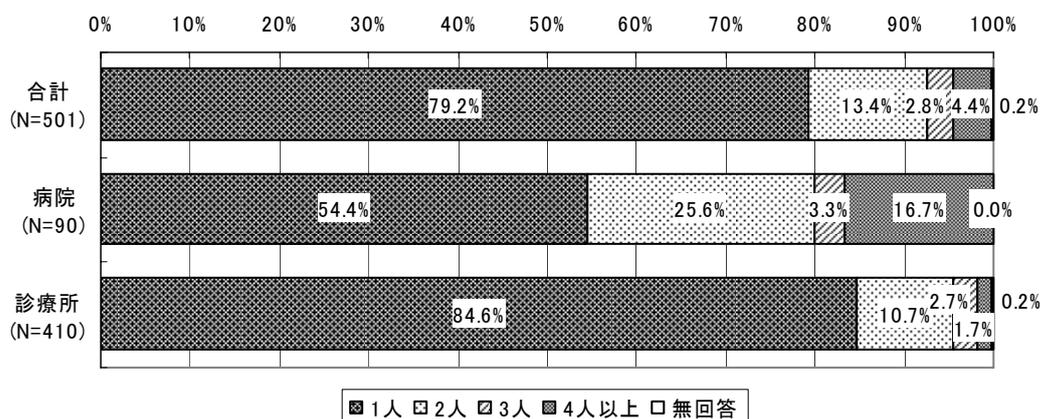
*合計 (N=501) には、施設区分不明 (N=1) を含む。

7) 禁煙治療に携わる職員数

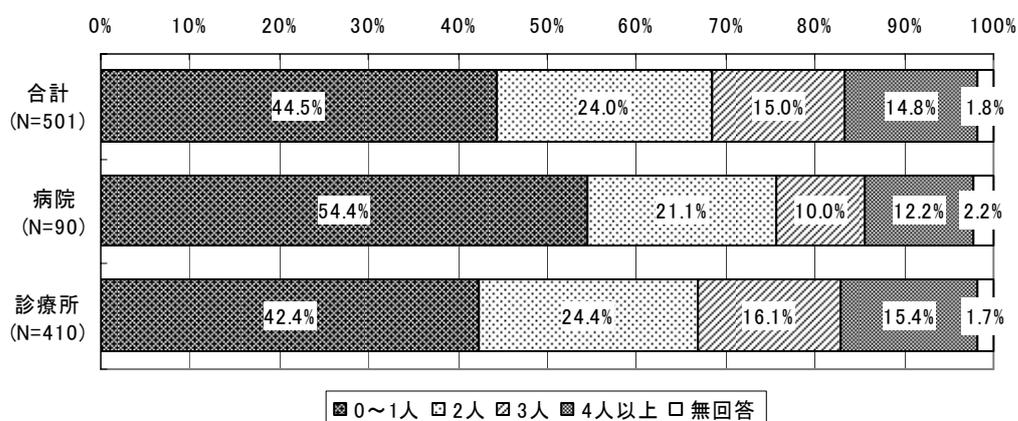
禁煙治療に携わる職員数（医師数）についてみると、病院では、「1人」（54.4%）が最も多いが、次いで「2人」（25.6%）。「4人以上」（16.7%）となっており、複数の医師が診療に携わっている場合も多かった。平均は2.31人（標準偏差2.69、中央値1.00）であった。また、診療所では、「1人」（84.6%）が最も多かった。平均は1.24人（標準偏差0.83、中央値1.00）であった。

看護師数についてみると、病院では、「0～1人」（54.4%）が最も多く、次いで「2人」（21.1%）となっていた。平均は2.23人（標準偏差2.80、中央値1.00）であった。診療所でも同様に、「0～1人」（42.4%）、「2人」（24.4%）となっていた。平均は2.37人（標準偏差2.14、中央値2.00）であった。

図表 12 禁煙治療に携わる職員数（医師数）



図表 13 禁煙治療に携わる職員数（看護師数）



* 合計（N=501）には、施設区分不明（N=1）を含む。